This Page Is Inserted by IFW Operations and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning documents will not correct images, please do not report the images to the Image Problem Mailbox.

	्रा
and an anti-fill the second control of the second control of the second control of the second control of the s Second control of the second control of the second control of the second control of the second control of the s	

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number :

03-140874

(43)Date of publication of application: 14.06.1991

(51)Int.CI.

GO1P 13/00

(21)Application number: 02-278875

(22)Date of filing:

17.10.1990

(71)Applicant:

SIEMENS AG

(72)Inventor:

DALEN BJOERN

NILSSON KENTH-AKE-SUNE

HOEGNELID KURT WECKE LILIANE

(30)Priority

Priority number : 89 89119524

Priority date: 20.10.1989

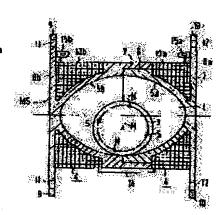
Priority country: EP

(54) INDUCTION-TYPE MOTION SENSOR

(57)Abstract:

PURPOSE: To prevent functional interference due to the geomagnetic field and/or lowfrequency magnetic field by equalizing the number of S and N poles of a magnetic body with at least four magnetic poles and balancing the magnetic body relating to the force applied to the magnetic poles in a uniform magnetic field.

CONSTITUTION: A magnetic body 3 in a hollow room 1 is spherical and has two N poles and two S poles, namely four magnetic poles, and the positions of the magnetic poles are indicated by X mark. As shown by a circle marked by a dashed line, the magnetic poles N and S are placed on a circumference, and the center of the circumference is located on a axial line that is extended through a center M of a ball. The magnetic poles N and S oppose each other on each diameter and are arranged on a plane including the center M of the ball. Also, an angle between two magnetic poles that are adjacent each other is $90^{\circ}\,$, all magnetic poles have the same magnetic pole strength, and each magnetic pole forms each magnetic dipole along with both magnetic poles that are directly adjacent. By configuring the magnetic body 3 in this manner, a functional interference due to the generation of earth magnetism and/or low-frequency magnetic field can be positively prevented since the magnetic body is in neutral, balanced state in a uniform magnetic



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

LAND O WASH

THE TALL BOTH TO SERVICE SERVICES.

John the sales BOOK AND A CONTRACT OF GREEK CONSUM TAY

 $(e_{j})\sim g_{\mathbf{q}}^{-1}, \quad \forall \quad$ 毛力 4.种品的点点 18 2 2 4 1 1 3 S.

Jahren Harrister Betti i Aller de Bergera. Per Per de la Cal 25 Co. 1 \$2 Co. 1 1 1 1 1 1 1 1

gradition of the control of AMERICA DECISION OF THE AMERICAN DECISION OF THE AMERICAN

THE SERVICE TOWN THE WORLD THE SEC.

The second of the property of the second of A STATE OF THE STA the second second that the second second

The state of the s The control of the co

69日本国特許庁(JP)

40 特許出願公開

平3-140874 ⑩ 公 開 特 許 公 報 (A)

@Int.CI. *

證別配号

庁内整理番号

❷公開 平成3年(1991)6月14日

G 01 P 13/00

8304-2F

審査請求 未請求 請求項の数 15 (全 11 頁)

毎発明の名称 誘導形運動センサ

釣特 頭 平2-278875

願 平2(1990)10月17日

優先権主張 ❷1989年10月20日❷欧州特許機構(EP) @89119524.0

四発 明 者 ピヨルン、ダレン **郊発 明 者** ケントアケスネ、ニル スウエーデン国ストックホルム、シグタナグ15 Ⅲ 09 スウエーデン国アケルスペルガ、トレルハフスフェーゲン

42

ソン 個発 明 クルト、ヘグネリト 朰

スウエーデン国スントピベルク、イエルンフエーグスガタ

ン50

リリアーネ、ウエッケ @発明者

スウエーデン国スントピペルク、フランストルプスフェー

ドイツ連邦共和国ベルリン及ミユンヘン (番地なし)

ゲン4ピー

の出 質 人 シーメンス、アクチエ ンゲゼルシヤフト

29代 理 人 弁理士 富村

- 1. 労明の名称 競選税運動センサ
- 2. 特許請求の範囲
 - 1) コイル(4、4′)及びこのコイル(4、 41) に相対的に可動な磁石体 (3、31) を有し対象物に結合可能な誘導形運動センサ - (MS、MS') において、磁石体 (3、 3′)が少なくとも四つの磁板を有し、その 際S框(S)の数がN框(N)の数に等し く、磁石体(3、3~)が均一な磁界中で磁 核に加えられる力に関し中立の平衡状態にあ るように、磁板の磁板装さが選択されかつ磁 極が磁石体(3、3′)に配置されているこ とを特徴とする誘導形運動センサ。
- 2) **運験センサ (MS、MS!)**が中空室 (1、1′)を囲むケース(2、2′)を 有し、その際磁石体(3、31)が中空 室(1、11)中に収容され、またケース (2、2~) がコイル(4、4~)により因 まれていることを特徴とする路束項1起義の

センサ。

- ・3) コイル(4、4!)がケース(2、2!) の外面上に巻かれていることを特徴とする誰 求項2記載のセンサ。
- 4) 磁機がそれぞれ同じ磁機数さを有し、相互 に同じ角度関係を置いてN極(N)にそれぞ れS榧(S)が続くように一円周上に配置さ れていることを特徴とする請求項1ないし3 の一つに記載のセンサ。
- 5) 磁石体(3、31) が球形に構成されてい ることを特徴とする請求項1ないし4の一つ に記載のセンサ。
- 8) 球形の最石体(3、31) が中空室(1、 1') の壁上を転がることを特徴とする護求 項2又は5記載のセンサ。
- 7) 中空室(1)が回転対称に構成されている ことを特徴とする緯水項2ないし6の一つに 記載のセンサ。
- 8) 重力の方向に相対的な差動センサ(MS。 MS!)の少なくとも一つの方向づけの概

		• •
-		
ή. \$17 -		
P.	and the second of the second o	
27 S		
	and the state of the The state of the state	
	and the state of the control of the state of	
		។ ស្រី
e B		6 15
**		
v ·		·
2 1 12 .		
•		
	가는 사람들이 되었다. 그런 한국의 전에 가장 보고 있는 것이 되었다. 그는 사람들이 되었다. 그런 그를 보고 있는 것이 되었다. 그런 그를 보고 있는 것이 되었다. - 사람들이 생각하는 사람들이 되었다. 그는 사람들이 되었다.	
-		
		i Tanana
	보는 사람들은 사람들이 되었다. 그런 이번 경우를 받는 사람들은 사람들이 되었다. 그는 사람들이 되었다. 그는 사람들이 되었다. 그는 사람들이 되었다. 사람들은 사람들이 사람들은 사람들은 사람들은 사람들이 가장 보는 사람들이 되었다. 그는 사람들은 사람들이 되었다.	
		· ·
y who	androper kan and transport of the property of the state of the property of the state of the state of the state The state of the state o	
e (, ,
		, k
		-7. -4.

に、中空室(1、1′)の壁上での離石体 こうしょう(3、3~)の転職が少なくとも困難となる。 」 とっとように中空室(1、1~)が成形されている the state of the s

つ。 8) コイル(4、4!) 及びこのコイル(4、 。 、 4)に相対的に耳動な磁石体(3、31) もお心対象物に結合可能な誘導形態動セン - Lagar (MS, MS') が中空室(1, 11) を囲 シタケース(2、2))を有心、その原政石体 - - (3、31、)が中空室(1、11。)に収容。 ここっされっケース(2、2)) がコイル(4、 4!) により囲まれ載石体(3、3!) が珠 形に構成されで中空室(11,211)の壁上。 erson alloward (MS、MS!) の少なくとも一つの方向づ - けの鹿にい中空室(1、1~)の壁上での猫 (5) 変態的止センサとして用いることを伸張と なるように中空窓(1、1')が成形されて、 カッチ・ しゅっ

3 発明の詳細な説明

【産業上の利用分野】

この発明は、コイル及びこのコイルに相対的に 『動ゼンサに関する。~~~~

【従来の技術】 こうこう おみ

The same of the second section

.

- この種の産動センサの機能は、運動センサが取っ り付けられている対象もの差別の数にコイルに対 する相対的な磁石体の移動が生じ、それによりコ イルに位用が誘導されるということによづいてい る。生体の身体活動を監視するために運動センサ が生体に結合されると、誘導された電流の振幅 及び/又は時間的変化が生体活動の強さ及び/又 は種類を逆維理するために評価される。これに反 して運動センサが姿盤防止センサとして用いられ ると、守るべき対象物をその場所から持ち去ろう。 とするのも独知できるために、誘導電圧の単なる 発生を検出すれば一般に十分である。

顔配の種類の公知の運動センサの場合に、蜂に センサが高い底度を有し従って既に非常に小さい 🦈 ことは いることを、故とする論事形理動センサ。

- 10)。中空室(11。)が風転対称に構成されてい ることを 後とする請求項9記載のセンサ。
- 。 . . . の形を有することを、微とする路水型フ又は 8 又は10の一つに記載のセンサ。
 - | | 12)||中空窓(11 |)がレモン形に構成されてい ることを特徴とする節水根7又は8又は10 の一つに記憶のセンサ。
 - 13) 刺激解放数が心臓ペースメーカ(18)を 支持する生体の身体活動に関係して観響され 。」、る心臓ペースなー丸(18)。中で差動センサ として用いることを特徴とする論求項1ない し12の一つに記載のセンサ。
 - 、 14) 寝台に寝ている息者(24)の監視のため で転がり、重力の方向に対する運動センサート。の運動センサとして用いることを特徴とする 薩求項1ないし12の一つに記載のセンサ。
 - 石体(3、3~)の転動が少なくとも国常と、ここ。 する顔は項目ないし12の一つに記載のセン

運動に応答するときに、地磁機によるか又は電気 。 . 機器例えば電路機から発せられる低間被磁界によ 。。る子律が起こるという問題が発生する。特に低質 対象物の運動が生じていないのにコイルに対する 相対的な磁石体の運動が発生するという広盟をし ほしば招く。

【発明が解決しようとする歴篇】

この発明の課題は、地路吸及びノ又は低回当点 。界の処生による機能干渉が確実に防止されるよう に、前記の種類の運動センサを改良することにあ

[親題を解決するための手段]

ことも四つの強揮を有し、その際5俣の数がN無の 数に等しく、融石体が均一な融界中で磁程に加え られる力に関し中立の平衡状態にあるように、磁 ែの政権強さが選択されかつ政権が最石体に配置 されていることにより解決される。

「作用体平)

地数場並びに電気機器から出る低層被磁界は、 S級が続くように一円周上に配置されているとき 接着の場合には運動センサが電気振器のすぐそば には置かれていないと仮定して、均一な磁界であ るので、これらの磁界はコイルに対する相対的な 保石体の相対運動を引き起こすおそれがない。そ れにより育記磁界による干渉が防止される。コイ ルに対する相対的な最石体の必要な可動性は、例 えば避石体が糸又は一つ又は複数のばねに振り 子のようにつり下げられることにより達成でき 爱力

[実施度接]

The state of the s

『この処明の特に有利な実施重視によれば、選動』』 センサが中空室を囲むゲースを有し、その顕叢石 体が中空室中に収容され、またケースがコイルに より囲まれている。それによりセンサの改善され た取り扱い性が達成され、そのとき合目的にコイ ル仲のように形成されたケースの外面上にコイル ** が着かれるときに、取り扱い性を更に改善するこ とができる。 磁極がそれぞれ関じ磁接強さを有 っぱっ れるように構成することができる。 この種の定動 し、相互に同じ角度間隔を置いて N 種にそれぞれ

の転動が困難であるが又は完全に防止されるよう な姿勢を取ると、遅點センサは低下した態度又は ○ ・ がけられない転載が再び可能となるほど対象物の3.3A 3.は33中空室が少なるともほぼ回転楕円体の形を有 炎勢が変化するときに初めて、運動センサは再び、 か 活性となる。 しょぶしつい しかて 渡遠寺

ことが重要であるような用途に対しては、この発 明の一実業職様に基づき、運動センサが中空室を 囲むケースを有し、その腋蔵石体が中空室に収容 され、ケースがコイルにより囲まれ、最石体が珍 形に構成されて中空室の禁上で転がり、重力の方 向に対する差點セシサの少をくとも二つの方向づ **** けの際に、値まじくは回転対称に構成された中空 室の壁上での磁石体の転動が少なくとも困難とな るように中空室が虎形されている。その際中空室 は磁石体の転動が困難であるか又はその上完全に 防止されるように構成することができる。この場 合にも中空室の壁上での磁石体の転動が困難であ るか又は完全に防止されるような運動センサの少

「に、磁石体を技」的に質 な方法で製作すること ができる。殴石体がこの発明の一実進度様に基づ き球形に構成されるときは、前配のことは特に客 易に実現できる。その際政策の磁石体が中空室の 壁上で転がるようにすることができ、それにより コイルに対する相対的な磁石体の必要な可動性が 技術的に特に簡単な方法で実現される。これに関 進して中空室を回転対称に構成するのが合目的で ある。珠形の中空室の場合にはセンチが完全に姿 fo 🔻 📜 🙀 勢に無関係に備くという長所が得られる。これに 反して温力センサの姿勢に関係する機能が望まし いときには、重力の方向に相対的な運動センサの 少なくとも一つの方向づけの際に、中空室の壁上 での競石体の転勤が少なくとも困难となるように 中空室が成形されていることにより、この機能を 実現することができる。その無中空室は離石体の 転動が困難であるが又は更にその上完全に防止さ センサを備えた対象物が中空室の壁上での磁石体

なくとも一つの方向が充在しいもれにより運動セ ンサがこの方向の際に低減された感度又はゼロの するか又はレモン形に構成されているときに簡単 に実現することができる。 🏥 😁

特に姿勢に関係して備く運動センサを準備する。 こっこの発明に当づく運動センサは、心臓ペース メニカを保持する思考の身体活動に関係して刺激 周敦数が開催される心臓ペースメーカで、 巡勤セ ンサとして特に有利に用いることができる。なぜ ならば従来この目的のために用いられた誘導が基 。駐センサに比べて地磁場により被覆させられず、 それにより特に比較的老齢の思考の身体活動に関 適して生じるような少ない運動をも良好に検出で 。きるからである。患者がうつぶせに寝ている場合 ばかりではなくあおむけに寝ている場合にも中空 室の整上での球の転動が困難であるか文は完全に 防止されるように、契勢に関係して備く運動セン サが心臓ペースメーカ中で用いられるときに非に 有利である。この場合には生産的に根拠の無い劇

撤周被数の増加が、取者の肉体的に休息状態に特に歴史状態にある際に防止される。 女ぜならば患者が立ち上がるか又は少なくとも座位を占めるときに初めて、型動センサが呼び十分な感度を有するからである。患者が検験している場合にセンサー上に知わる体重のために、耐激問被数の生理的に提集の無い増加の危険が存在する公知の圧電形理器センサに比べて、この発明に基づく運動センサの場合には耐激問被数の生理的に提携の無い増加がほぼ防止される。

この発明に基づく理動センサは、特に集中的機 室の中で複合に狭ている患者の監視のための運動 センサとして有利に用いられる。ここでもこの発 明に基づく運動センサにより実常に小さい運動が 検出可能であるという長所が効果を発揮する。

この角明に基づく運動センサの別の有利な用途は、このセンサが姿態防止センサとして用いられるということである。強い太久融石により無機能にされるおそれのある公知のセンサに比べて、このことはこの免明に基づく運動センサの場合には

1 1

り、これらの部分ケースは適当な方法で例えば接着により相互に結合され、回転楕円体の形を有する。 阿部分ケース 5 a、5 bの間に存在する離目の中空室1に助後する領域は、一点領域で示された回転楕円体の回転楕関に広がる平面上にあり、しある回転楕円体がその最大直径を有する個所にある。 それにより部分ケース 5 a、5 b が中空室1をれにより部分ケース 5 a、5 b が問題なく針出は形式を照の範疇にアングカットを打せず、それにより部分ケース 5 a、5 b が問題なく針出は形形なり部分ケース 5 a、5 b が問題なく針出はが立たが連ばされる。

部分ケース 5 b に向かう優の城部には部分ケース 5 a が心出し用度起 6 を備え、この既起が円筒形外面を有し、この外面の中心軸線は回転精円体の回転軸線に一致する。部分ケース 5 b は部分ケース 5 a に向かう側の端部に部分ケース 5 a に向かう側の端部に部分ケース 5 a の心出し用軽起 6 を収容する心出し用緩ってを値え、この心出し用緩は円筒形内壁を有し、内壁の直径は心出し用勝起 6 の外面の直径に等しい。心出し

容易には行うごとができない。なぜならばこのセンサの磁石体は水久磁石の磁界中で中立な平衡状態を占めるからである。この発明に基づく運動センサのすぐそばに持って来られた非常に強い水久磁石だけがセンサの機能を著しく妨げることができるにすぎない。

【実施例】

次にこの発明に払づく返患センサの複数の実施 例を示す図題により、この発明を辞録に説明する。

第1回に示すように、この発明に基づく運動センサMSは中空室1を関むケース2、中空室1の内部に入れられた磁石体3及びケース2の外面上に取り付けられたコイル4を有する。運動センサMS又はこのセンサが取り付けられている対象の運動の際に、磁石体3は中空室1の整上を転がる。その際コイル4に対する相対的な磁石体3の登りが生じ、その結果コイル中に運動の発生を示す電圧が誘導される。

ケース2は二つの部分ゲース5点: 5 bから成

1 2

用録7の内壁の中心軸線は同じぐ回転楕円体の回転機械に一致する。使って両部分ケース5 a、5 b は心出し用壁起8及び心出し用録7により相互に心出しされ、中空変1を頭成するケース2の ・ 生が部分ケース5 a、5 b の間の難目の範囲で全く政治を有せず、それにより選石体3の円滑な転動が保証される。

心出し用整起8又は心出し用級7を度外視すると、部分ケース5a、5bは主として一定の原序の形はほぼ回転の円のののので、ケース1の外形はほぼ回転の円のの形に相応する。この回転楕円体の先端の形には部分ケース5a、5bはそれぞれほぼ円をのフランジ8a、8bを備える。フランジ8a、8bは更に心出し用級7の外径にほぼ等しい外係を有する。

使って一方では部分ケース 5 a の外壁、フランジ 8 a 及び心出し用盤配 6 並びに心出し用鍵で 7 が、また他方では部分ケース 5 b の外壁、フラ

ング 8 g及びも出し用線 7 が二つの轉を離成 し、これらの韓の中に二つの部分コイル138、 ○ ↑ 1 3 b から成るコイル 4 が着かれている。コイ ル 4 は 6 ~ 1 · 0 · 0 μ 皿の大さのエナメル鎖線か **与成り、エナメル網線の大きに応心で100~** 100000ターンを有する。 両部分コイル 13a、13bは、コイル4を経て流れる電波が □対:趙分:コイ:ル*13a、13b中で同じ四転方向を 🍦 🦢 存するように、各分コイルの一方の場部で導線 14により結合されている。部分コイル13g、 I 3 b の他方の媼席はフラング8a.8bに取り 作けられたろう作け増子引 5 a、*1*5*b へみかれ ※※・ケース炉を収容するようなするにどができる。 ○ これにろう分けされる。ろう分け場子/1 5 a 、 1:5 bには図示されていない方法で、コイルもを . 図示されていない遊当な評価回路と結合するた 。」 めに用い方れる単数をろう付けすることができ

The Star of Maria

、とにろで付加部3、110を有するフランジ。) 8 a 、 8 b は、部分コイル 1 3 a 、 1 3 b の固定 のためばかりでなく更に取り付けのためにも用い

15

- : いる。 更に相互に隣接する三つの厳傷の関には ₂ 9 0 * の治度αが存在するように配置されてい 。 る。更に前記実施例の場合には最極が球の中心M を含む平面上に患蓋されている。すべての磁極は、「互に正確に反対向きであるので合力はゼロに等し 同じ磁極強さを有し、その顕各磁糖は直接算接す 。 る阿磁極と共にそれぞれ磁気変種子を形成する。 磁石体3のこの構成により、磁界により磁板に加 えられる力に関しては磁石体は均一な磁界中で中 立な平衡状態にある。

このことは許る凶及び辞る図により名品に明ら かとなる。第3回は一つのN框N及びN框に対し **畝極上に向かい合う一つのS框Sを備えた円板形** 磁石体化2を示し、この磁石体は均一な磁界中に 置かれ、避界の磁束線は北下から南 S に向かって 廷ぴる直線群により示されている。N板Nには破 東線に対し平行に南方向に備くカFNが作用し、 それによりN価Nは密方向に向こうとする状態が 生じる。原様にS様Sには同じく磁揺線に平行に しかしながら北方向に向く力FSが作用し、その ためS板Sが北方向へ向こうとする。磁気収穫子

られる。最も簡単な場合には運動モンサMSは 一方又は両方のフランヴ 8%a、88°b°で、 登視しよ うとする対象 又はこの対象物に強固に結合され た部材などに接着することができる。しかしなが ら邁聯センサMSは長孔門 1、 1.2を貫いて進か れ関示されていないボルトにより、監視しようと する対象物又はこの対象物に強固に融合された部 材などに取り付けることも可能である。最後に図 示されていない方法で、運動センサを場合によれ ば評価電子風路と共に適当な方法で何えばベルト により監視しようとする対象物に取り付けられた

中空室1に収容された磁石作るは球(直径的 2 血血)の形を有しかつ四つの磁径を有し、これ らの磁板は二つのN板及び二つのS板である。磁 「板の位置は第1日間に×印により示されている。 一点銀銀により記入された円が示すように磁程は 一円貫上に置かれ、円耳の中心は球の中心層を 通って延びる軸線上にある。N 極 N 及び S 極 S は 相互にそれぞれ収径上に向かい合って配置されて

を形成するN框N及びS板Sがそれぞれ同じ磁板 強さを消するという状況のゆえに、 カRN及び FSは大きさが同じである。 河力を煮、 FSは相 いっ しかしこのことは磁石体K2の第3図に示さ 。。れた位置に対して、力をN。FSにより生じる屋 転モデジントの和に関して出明らかに成立しな い。従って磁石体K2は均一な磁界の作用のもと に、N極Nが正確に南を向きS種Sが正確に北を - 向くように差列させられる。そしてこの状態では 力の和がゼロに等しいばかりでなく回転モーメン トの和もゼロに等しい。なぜならばこのとき力 FNは力PSと同じ作用線を有するからである。 従って第3回に示す磁石体K2は、そのNEHが 正確に崩を向きS紙Sが正確に北を向くような安 定した平衡位置を占めようとすることが明らかで ある。このことを第1箇及び第2箇に示すこの発 ・明の運動センサと異なって二つの政権だけすなわ ちーつのN種Nと一つのS榧Sとを備えた球形の 迸石体を有する選助センサに当てはめると、 干渉

. A. . .

1 9

第5回は、心臓ペースメーカ16中に第1回 及び弟2団に基づく運動センサMSを使用する例 を示す。患者の作内に植え込むために用いられる 心臓ペースメーガ18は、寒気性材料例之ビチタ ンから形成された気密な平らなケース17を有 じ、このケースは心臓ペースメーカ18の碘皮部 品を支持するプリント配線収36を囲む。その数 プリント彫象板 3 6 はケース17の平面に対しほ は平行に置かれている。心臓ペースメーカ16分 刺激パルス発生器18及び検出回路19を有し、 これらはそれぞれ調你ロジック20に結合されて いる。万一、検出回路19により検出された自然 の心拍又は剪撒パルス発生着18から発せられた 刺激パルスに続いて、房定の心拍肩被数に相応す る時間隔隔の経過の後に検出回路19により自然 の心拍が検出されないときは常に、何何ロジック 20が刺激パルス発生者18に刺激パルスを発生 せしめる。その家観街ロジック20か心拍演放数 に相応する時間関層の長さを思者のそのつど存在 する身体活動に進合させる。このために鮮得口

に守じいということも容易に確かめることができ る。第4回の場合には、磁石体化4世均一な磁界 により融石 に加えられる力に関して中立な平衡 状態にあるということが明らかである。その緊筋 単にするために第4箇に示されたような平間的な 均一磁界に対するばかりでなく立体的な均一磁界 に対しても、また円板形磁石体に対するほかりで なく球形磁石体に対してもこのことが成り立つこ とも容易に確かめることができる。第1回及び 第2国に示すこの発明に基づく意動センサに当て はめると、このごと住場。女子歩磁界がコイル4 に対する相対的な球形確石体の運動を引き起こす おそれがなく、従ってこの発導に基づく運動セン サが干渉に強いことを意味する。更にこの職石体 が発揮に加えられる力に関して中立な平衡状態に あるという状況のゆえに、均一磁界が四極の磁石 体化4を翻載させるおそれがない。使って四種の 厳石体K4を備えるこの発明に基づく運動センサ MSが高い最度を有し、非常に小さい運動に広答 することが明らかである。 🖰 🔌

2 0

ジック20は信号調整回路21に結合され、信号 調整回路には第5回に示されたこの発明に並づく 運動センサMSが接続されている。差数センサ MSは遊当な方法で例えば装着又はかみるい前合 だよりプリント配象板38に取り付けられてい る。耐賀ロジック20は心拍局被数に相応する時 時間隔の長さを、 信号調整回路 2.1 から供給され た自号に関係して、恵者の非常に小さい又は欠け ている身体活動に相応する下限値(例えば60桁 毎分)と、思考の非常に高い身体活動に相応する 上製館(例えば150拍绎分)との間で調節す る。重数センサMSは、その中空室1の回転無線 がほぼプリント配線板38の頭に直角に延びるよ うに、プリント配盤板38に取り付けられてい る。更に第1因及び第2回に示す遺動センサMS の場合には、球形の離石体3の直径が中空宝1を 形成する回転楕円件の最小曲率半径に少なくとも 等しいようにされる。心臓ペースメーカ18は造 常、ケース17の平頃が慰洛の身体崩固に平行に なるように恵渚の胸部に植え込まれるので、中空

...... 室上の風転機線は患者が横貫した場合に重力の方 向に平行に延びる。患者が横臥した場合にこの発 明に基づく運動センサMSの第6間に示した作動 状態が生じ、この作動状態では球形の磁石作3 に、円周に沿って囲転排門体形中空室上の外面に 接触する。そのとき磁石体3は重力の作用のもと に、中空室1の壁上での転換従ってコイルをに対。 大る相対的な運動が阻止される。「拘束位置」を占 める。この処置により例えば列車の総台車におけ る種な嵯峨条件のもとでさえ、刺激周被数の生理 的に根拠の無い増加が助止される。なぜならば磁 石体が「拘束位置」にある関リ運動センサMSが いわばゼロの感度を有するからである。患者が再 び立ち上がるときに初めて、離石体3が再び中空 | 第1の壁上を自由に転がることができるので、思 者の身体活動に適合する刺激刺激数の制御を行う 。ことができる。その製比較的長い時間を超えて思 者の身体活動を投し示す信号が発生していない。 我って敵石作3は『拘束位置』にあったときに、

2 3

電位を導く増子とを有し、その裏後者はここでも 装地配号により示されている。関域パルス発生器 18の刺激電位を導く出力増にかりでなく検出 19の入力増も接続ソケット23を備え、接続 ソケットには図示されていなのの電極は思考の静脈 系を経て心臓へないない。その電極は思りの では出者の心臓がルスを生ましまりに用いる。 生は出るの心臓がルスを供給するために用いられる。 はは、他がでは検出のが、より発生のでは、他がでは検出ののでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、 相応する信号を供給するために用いられる。 単位は心臓ペースメーカ16を関む思考の組織に用いる では、このことはケース17が接地配号を備える ことにより示されている。

この発明に基づく運動センサMSが地域場によってもまた電気機器から発せられる低周被選昇によっても干渉されるおそれがないという状況のために、小さい身体活動も確実に検出されるので、この毎明に基づく運動センサMSを備える心

利後パルス発生機18はそのほかに刺激電化を 率く出力増と基準電化を導く出力場とを有し、そ の駆後者は疲地配号により示されている。相応の 方法で検出回路19は、刺激しようとする心臓の 電気的結動に相応する電位が加わる入力増と基

2 4

職ペースメーカ16は特に比較的老輪の思考に直 している。到の是所として、思考が被謀している 場合に刺激用被数の生理的に複機の無い増加が実 数上改正されるということが付け加わる。なぜな らば患者のこの姿勢の際に中空宝1の壁上での球 形成石体3の転動が不可能だからである。

A 15

ために用いられる。

盗難防止センサとしてこの発明に基づく運動セ ンサMSを使用する例が筋B図に示されている。 ここでは絵画30枚示され、絵画の枠にこの発明。 を取形に雑席することが合見的である。 に基づく差数センサMSが取り付けられ、運動士 ている。終題30が動かされるか又は容線32が り飾されると直ちに、検出国路は店舗的信号表置。 り、このセンサは公知の競響形センサに比べて、 太久政石を用いてセンサの作動を止めることは言 具にはできたい。

一般に、複台に寝ている患者の監視のために用 いられる道路センサMSの場合はかりでなく、盗 勢に対して運動センサMSの一様に高い感度が保。。....

27

Market and a

ン形の形状は、重力の方向に対し相対的な運動セ ンサMS!の前配方向づけの場合に、磁石体3! がその直径の大きさに無関係に中空室 1! の唯上 での転動を完全に防止されるという是所を提供す

前記の運動センサに対するこの運動センサ M S 「 の別の相違点はケース 2 ′ の若干異なる形 状にある。このケースはプリント配益板381の 孔37中に取り付けるために用いられる。部分 ケース5 a! 、5 b! のフランジ8 a! 、8 b! は従って何も付加部の無い円板形に構成されてい る。その代わりに部分ケース5b! はフランジ 8 b'に跨接する婚部の範囲にカラー38を備 え、このカラーは運動センサM S! を取り付けた 取にプリント配盤板3~8~0~00回に接触する。 自由 増部の範囲には心出し用量で! が複数の弾性的に たわむ爪39を備え、これらの爪は孔37の中へ 運動センサMS! を導入する際に半径方向内向き に変形し、孔37の中へ運動センサMS!を完全 に挿入した数に再び半径方向外向 まにはね戻り、

匿される。心臓ペースカーカで用いられる揺動セ 。 、ンガがSLの複合にも、例えば思考が休息状態にあ る例えば横風位置にあるかどうかを補助的なセン サドより確かめることができるときに、中空室!

| 株に心臓ペースメーカで用いるためのこの発明 ンサは導線3.2を介して検出国路3.3に結合され、に基づく運動センサの別の実施例が第.9 図に示さ れている。この実施例は前記の実施例と社優かに - 見なっているにすぎないので、それぞれ同じ部品 3.4及び/又は光学的情景装置3.5全備かせる。 に対して第5関の場合にはそれぞれませれませんする同 この発明に基づく運動センサMSの前部特性によった。一様長が用いられている。 論記の運動センサに比 べてこの運動センサMS」の第1の相違点は、 ケース2 が第9週に一点鏡線で記入された回転 種様に関ル国転対象なほぼレモン形の形状の中空 。 楽!! を囲むということにある。 従ってこの運動 センサMS!の場合に、愛味しくは歯配の寒魚側 推防止のために用いられる運動センサMSの場合。 - ド蓋づく瞳石体に相応する離石体3!は、中空室 にも、中空室1が攻形に構成されることが当を得った。11.0の風影楽線がほぼ重力の方向に平抗に低びる ているので、監視しようとする対象物の任意の姿。ときに、中空変1点の優上での転動が防止される 『拘束位置』を占める。その殿中空室』「のシモ

2 8

そして孔37中での運動センサMS! の隙間の無 い保持をもたらす。第5回を参照すれば、心臓 ペースメーカへの運動センサM S! の組み込み は、磁石体3′が患者の横队している際に「拘束 位置」に来るように行われるということが、この 処置により保証されることは明らかである。

コイル 4! の部分コイル 1 3 a! 、 1 3 b! の 始部4.0 a、41 a 又は4.0 b、41 b は 图示さ れていない方法で、プリント配線板36のこのた めに用いられるろう仕け点に直接ろう付けされ

第1回、第2回及び第6回に示す実施側の場合 に砒石体 3 比各二つのS種及びN種を有する。し かしながらこの発明の枠内でS低の数がN極の数 に等しいことが保証される展りは、 磁石体 3! ☆ 比較的多数の磁板を有することもできる。更に前 記実施併の場合に、すべての磁極が同じ磁極端さ も有し、一円周上に配置され、相互にそれぞれ師 じ角度間隔を有するように設定される。しかしな がらこの発明の枠内において、磁石体が均一立磁

界中で中立な平衡状態にあるように、磁極の段極 独さが選択されかつ磁極が磁石体に配置されるこ とが保証される限り、他の配置を行うこともでき る。

1872 SEAL 1 14 4

融石体は磁化可能な材料例えば数合金から成り 必要な方法で磁化されている。しかし磁石体は適 当な方法で磁石をはめ込まれた磁化不能な材料。 例えば低合体材料から形成することもできる。

運動センサの所定の方向づけの場合に磁石体の 転動が困難であるか又は阻止され、運動センサの 耐干禁性よりはむしろ位置に関係する機能が第1 の優先順位を有するように、中空窓が成形されて いる運動センサの場合には、従来のように構成 石 れ均一な選邦中で安定した平断位置を占める は、患者が横取位置を取っているかとりか は、患者が横取位置を取っているかとりかと は、患者が横取位置を取っているかとの できるために、例えば心臓ペースメーカ中に用い ることができる。そのときは患者の身体活動に関 係して刺激用被数を直当に制御することを別の選 当なセンサにより行わなければならず、この運動

センサの信号は患者が横風位置にないときだけ考慮される。

4 . 図面の筒 な説明

第1 因及び第8 図はこの発明に基づく運動センサの一変単例の異なる超級状態を示す新聞別、第2 図は第1 図に示すセンサの嫡面図、第3 図は従来の二種厳石体の季動製明図、第4 図はこの発明に基づく図機を小りを内閣の関係をは、第5 図はである。第7 図及び第8 図の見います。の発明に基づく運動センサを内閣をいまる。第7 図及び第8 図のの発明に基づく運動センサのもの他の異なる。第1 例を示す図、第9 図は運動センサの別の実施例の所面図である。

1.1'…中空室

2. 21 -- 7-2

3,31 … 磁石体

4. 4 ニョイル

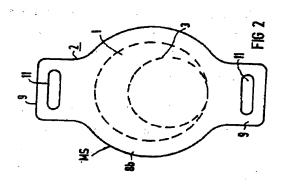
16…心臓ペースメーカ

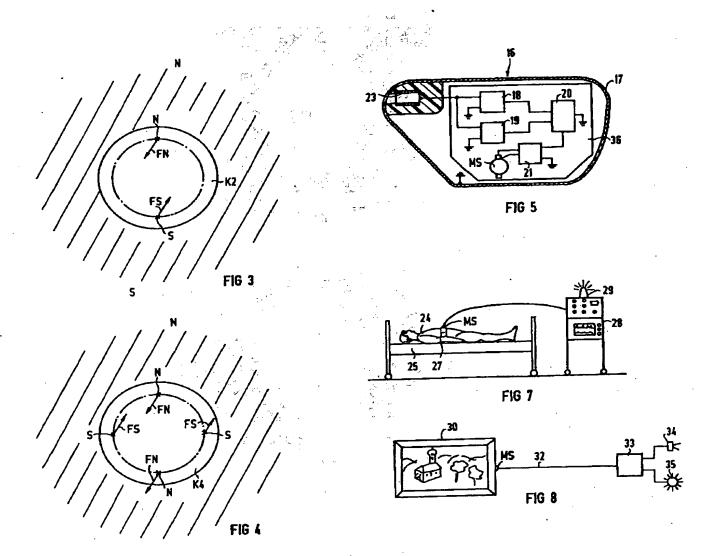
2 4 … 应者

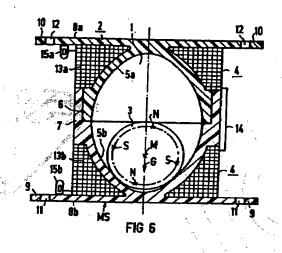
MS、MS! …運動センサ

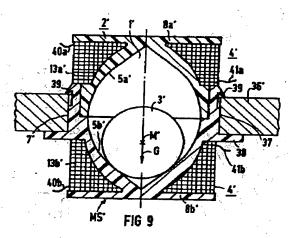
(STUR)代源人 #原史 貫村 融。 2

3 1









【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載 【部門区分】第6部門第1区分 【発行日】平成11年(1999)4月9日

【公開番号】特開平3-140874 【公開日】平成3年(1991)6月14日 【年通号数】公開特許公報3-1409 【出願番号】特願平2-278875 【国際特許分類第6版】 GO1P 13/00 【FI】

手続補正會

жж офоя 19 в

等于疗法官政

G01P 13/00

1. 事件の表示

مبيت دية سان

平成 2 年 移 斉 麗 第 278875 号

2. 特定をする者等待との野祭 特許出職人名 む ページセッナー アクテボラゲット

1. 代 祖 人 住 所 F106 並立初地区区新橋2プロフラ・ラ 京新線20森どル 10日 ドクトル・アンデルオン技術事態所 英語 03 (3503) 33 03 (代表)

氏 む (6181) 弁理士 矢 野 散 雄



- L 補正により増加する請求項の数 0
- 5. 植正対象容質外 図解含
- 6. 福正対象項目名 仲計前水の名団
- 7. 福正の内容 別紙の通り



? 特計費水の寛田

- 1. コイル(4、4′) 及びこのコイル(4、4′) に指対的に可数な磁石体(3、3′) を単し対象物に結合可能な影響が運動センサ(MS、MS′) において、超石体(3、3′) が少なくとも凹つの級値をなし、その際S板(S)の及が対板(3)の数に申しく、超石体(3、3′) が均一な速率ので凝集に加えられる力と関し中立の平衡が悪にあるように、磁等の延縮強をが遅れたかつ最近が磁石体(3、3′) に定置されていることを特別とする対象が認識させた。
- 2 運動センキ (MS、MS *) が中空室を置むケース(2、2*)を有し、 その最極石体(3、3*)が中空室(1、1*)中に収存され、またケース (2、2*)がコイル(4、4*)により聞まれていることを存位とする時 事項1犯扱のセンサ。
- 3. コイル (4、4°) がケース (2、2°) の外面上に他かれていることを 特徴とする病を項2匹表のセンサ。
- 4. 凝悪がそれぞれ同じ協議致さを有し、相でに同じ分皮内原を置いてN間(対)にそれぞれ5種(S)が続くように一円周上に配置されていることを幹 懐とする着が重1ないし3の一つに配載のセンキ。
- 5. 観音体(3、3*)が攻撃に保成されていることを特徴とする前求点1ないしょの一つに危数のセンサ。
- 6. 球形の磁石体(3、3 *) が中空室(1、) *) の登上を転がることを特徴とする高水収2又は5記載のセンサ。
- 中型室(1)が回転対象に構成されていることを申憶とする最実過2ない し6の一つに記載のセンサ。
- も 重力のが内に他対けな基金とンク(MS、MS*)の少せ(とも一つの方 的づけの際に、中空息(1、1*)の登しての磁を体(3、3*)の症計が 少な(とも用電となるように中空瘍(1、1*)が収売されていることを伸 報とする除水系で欠ける配象のセンサ。
- 小志報(1)が少なくともほぼ四級機円件の夢を有することを特徴とする <u>請求収了支はもに</u>記載のセンヤ。

特開平3-140874

- F. C. 187

18 18 19 1

1.50

t 5.

W

10. 甲原塩(1)がレモン形に構成されていることを非難とする<u>設定項で又</u> <u>住名に</u>記載のセンサ。

The state of the s

- 11. 対象用限度がG級ペースメーカ (16) を支持する生体の身保活動に保保 して対対される心臓ペースメーカ (16) 中で運動センサとして用いること を特質とする、<u>触定項1ないし10の一つ</u>に配取のセンサ。
- 12. 空台に書ている出き(24)の監視のための温動とンサとして深いることを特徴とする<u>業未須しないし10の一つに</u>記載のセンサ。
- は、 立意対立センサとして用いることを仲献とする<u>就求項1をいし10の一つ</u> 上記載のセンサ。

. 1.9.

野蛋香蛋白物 人名